1.　評価報告概要表

評価確定日　平成21年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2274201471
法人名	株式会社スタッフ・アクタガワ
事業所名	グループホーム若草の家　城北
所在地 （電話番号）	静岡市葵区池ヶ谷6－20 （電　話）054-249-1188

評価機関名	静岡県社会福祉協議会
所在地	静岡市葵区駿府町1-70
訪問調査日	平成20年12月1日

【情報提供票より】（平成20年11月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成17年9月15日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9 人
職員数	15人	常勤　14 人，非常勤　1人，常勤換算　4.4 人

（2）建物概要

建物形態	(併設)／単独	(新築)／改築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建ての　2 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	60,000 円		その他の経費（月額）	10,000 円
敷　　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　45,600円）		有りの場合 償却の有無	有（期間：12ヶ月）
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	125 円
	または1日当たり	1,125　円		

（4）利用者の概要（　11月　1日現在）

利用者人数		9 名	男性	2 名	女性　7 名
要介護1		2 名	要介護2		1 名
要介護3		0 名	要介護4		6 名
要介護5		0 名	要支援2		0 名
年齢	平均	86.5 歳	最低	77 歳	最高　95 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	しらいわ医院　近藤歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、JR静岡駅から車で北へ向かって20分程の麻機街道沿いにある。開設後3年経って地域に定着し、家族が相談・苦情など言い易い関係ができており、健康面、医療面、安全面等について不安な点はないと家族アンケートからも汲み取れる。また、介護技術向上の研修に力を入れており、利用者へのサービスの質の向上に努めている。ホームは地域における必要性が高いため、今後職員の定着化を進めて、更なる発展を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

家族への報告「当たり前の事を知らせる」が足りなかった点について、利用者の健康状態を重点的に報告するように努めている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価はチームで取り組み、管理者が報告書をまとめた。職員からは「難しかったが、改善に向けての心構えができた」との声があがった。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

2ヶ月に1度開催し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、併設の小規模多機能居宅介護職員、家族等が参加している。多くのメンバーが参加できるよう、開催の曜日・時間を調整している。利用者の状況や行事内容を報告するとともに、家族の意見を聞く場としている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

毎月のホーム便り、年2回の家族会、行事への参加、訪問時等に家族からの意見を得る機会としている。運営推進会議においても参加者全体から発言があるよう配慮し、意見については運営に反映するように取り組んでいる。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

幼稚園の行事に招かれたり、小学生やボランティアの訪問を受け入れている。また、職員も子供を通じて、地域と顔の見える関係づくりに努めている。今後、日常的に近隣の方々と会話が交わせる関係となることを期待する。

2. 評 価 報 告 書

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「共に暮らし、共に生きる・寄り添う・助け合う・喜び合う」という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、朝のミーティングで理念を再確認して具体的なケアについて、意見の統一を図っている。また、利用者が気持ち良く過せるような言葉がけや態度を心がけている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	設立間もない頃、近所に小火が発生したことがあり、近隣と顔が見える関係づくりの大切さを学び、地域との交流に努めている。現在、花火大会への招待や小学生の訪問等があり、利用者の楽しみとなっている。また、地域のS型サービスへ参加している利用者もいる。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はチームとして取り組み、管理者が報告書をまとめた。管理者・職員は評価を実施することによって、改善に取り組む心構えを学んだり、第三者の視点で自らのサービスを見つめ直している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、併設の小規模多機能型居宅介護職員、家族等、参加している。入居者の状況や行事案内等の報告し、家族から意見を出してもらったり、民生委員からは地域の状況が紹介されたりしている。	○	市職員へも出席を依頼したい。また、地域組織へ防災体制づくりへの協力を働きかけたい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	サービス内容の確認や後見人問題について、市担当者と相談しながら、連携を図っている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「若草の家城北通信」を発行し、家族へ利用者の暮らしぶり等、近況を連絡している。また、家族の訪問時、話し合いを行い、家族からの要望を確認するように努めている。金銭管理については本部から定期的に報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時以外にも、家族会を年2回、運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、家族からの発言をもらう機会としている。また、苦情・相談は責任者がまとめ、内容をミーティングで検討し、改善と予防に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職があった場合は、勤務調整を行い、スムーズに職員交代が行われるよう配慮している。運営者は福利厚生、研修への参加等に力を入れ、職員が定着するよう工夫している。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の必要性を理解し、内部研修の充実及び外部研修へ参加できるよう勤務調整を行い、職員のスキルアップを図っている。研修後は報告書を提出し、内容を会議で話し合い、共有している。また、資格取得の研修にも力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム相談員の集会へ参加したり、市主催の介護相談員との意見交流会に出席している。ネットワークづくりに努めた結果、音楽療法の活用につなげることができた。	○	職員全体が他事業所の職員と交流できる機会をつくり、日々のサービス向上へつなげていくことを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態を把握し、グループホーム入居が適切であるかどうか、入居判定会で検討している。また、一週間の体験入居の利用について、家族に勧めている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に昔のことを聞いたり、裁縫を教えてもらうことによって、職員は自分にないものや知らないことを教えてもらう機会となっている。また、調理は利用者と一緒に行い、できることをお願いするようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動、表情、話などから思いを把握・記録し、ミーティングで共有している。確認した内容をもとに、寄り添った支援を行っている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、思いや意向を汲み取り、ケース会議の中で意見を出し合い、介護計画を作成している。作成後は家族へ説明を行い、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直しを行っているが、月に一度利用者や家族から意向や状況を確認しており、変更があれば対応するための仕組みができている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の状況に応じた通院や理美容等の送迎を行っている。併設施設の看護師と連携が取れているため、利用者や家族からは医療面での対応について満足感を得ている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月3回協力医・歯科医の往診があり、医療機関より指示書・助言がもらえる関係となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、主治医や家族へ速やかに報告するとともに、緊密に連絡を取り合い対応することとしている。	○	終末期の対応方針を定め、職員間での共有化を期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	認知症に関する研修を行い、人格尊重や言葉がけについて共有し、日々の対応の中でプライバシーの確保に努めている。丁寧な対応や適切な書類の管理等を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、その日の利用者の体調に合わせ、食事の下準備、洗い物・拭く事、洗濯たたみ、塗り絵などに取り組んでもらっている。また、進んで役割を行う利用者もいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の嗜好を把握し、色採りにも気をつけている。利用者は率先して調理や片付け等を職員が見守り、行っている。職員は一緒に食事をしながら、さりげない言葉がけを心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の日・時間帯は決まっているが、利用者の希望に応じて、柔軟に変更を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、食事の下準備・片付け、洗濯物干し・たたみ、掃除など、利用者の役割や生きがいづくりの把握に努めている。また、草や土に触れる事が好きな利用者のために活動できる場づくりを検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、希望に応じて散歩やドライブ等、外出支援を行っている。また、情報収集を心がけており、地域の行事（夏祭りや花火大会）へは、移動に係る負担を配慮しながら、参加できるよう努めている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない暮らしの大切さについて、管理者・職員が共有し、鍵をかけないケアを実践している。外へ出るときは、職員が付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム内で防災訓練を実施したが、地域組織との協力体制まではできていない。	○	運営推進会議において、地域組織に防災訓練への参加依頼を働きかけていくことを期待する。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取・水分量等を把握し、献立は栄養が偏らないよう配慮している。利用者の好みや体調による変化など、冷蔵庫の表面にメモ書きし、職員が確認しやすい体制となっている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はスペースが広く、音や光りが利用者の負担にならないよう配慮された作りとなっている。利用者は、居間からテラスに出て、プランターや洗濯物を見ることによって、季節感や生活感を感じることができる。また、廊下にソファーを置き、入居者が一人でくつろげる場も確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や自作の作品、使い馴れた家具が置かれており、その人らしい生活感が感じられる居室となっている。	○	生活感が希薄な居室もあるため、家族と話し合い、利用者が落ち着いて生活できる環境づくりに取り組まれたい。